

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。 〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、感覚器系・消化器系・泌尿生殖器系・内分泌系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。 〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 参考書：やさしい解剖学 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 医学書院 〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	感覚器系:視覚器	視覚器の構造と機能、障害を説明できる							
2	感覚器系:平衡聴覚器	平衡聴覚器の構造と機能を説明できる							
3	消化器系:口腔、咽頭	口腔・咽頭。嚥下反射を説明できる。							
4	消化器系:食道、胃	食道・胃の構造と機能を説明できる。							
5	消化器系:小腸	小腸の構造と機能を説明できる。							
6	消化器系:大腸	大腸の構造と機能と特徴を説明できる。							
7	消化器系:肝臓、脾臓、胆嚢、腹膜	肝臓・脾臓・胆嚢・腹膜の構造と機能を説明できる。							
8	泌尿器系:腎臓	腎臓の位置と構造を説明できる。							
9	泌尿器系:腎臓、尿管、膀胱	尿の生成と尿路を説明できる。							
10	生殖器系:男性生殖器	、男性生殖器の構造と機能を説明できる。							
11	生殖器系:女性生殖器(卵巣、卵管)	卵巣と卵管の構造と機能を説明できる。							
12	生殖器系:女性生殖器(子宮、陰、外陰部)	子宮・陰・外陰部の構造・機能・特徴を理解する							
13	内分泌系	ホルモンの名称と働きを説明できる							
14	内分泌系	ホルモンの名称と働きを説明できる							
15	期末試験								
〔評価について〕 小テスト(3回)30点満点＋期末試験70点満点 59点以下を不合格とする				〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								島田 章則			
病理学				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として医学的・科学的な総合的知識を得るとともに、病気の発生に関与する普遍的細胞レベルの傷害や分子の異常を学習・理解する											
〔到達目標〕											
疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 病理学						〔準備学習・時間外学習〕 毎回の授業で、理解度の把握を目的とした小テスト(5問:2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題)を実施します。教科書の当該部分を読んだの予習および復習をしておくこと。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	病因、退行性病変、進行性病変					病因(外因、内因)、変性、萎縮、壊死、肥大、過形成、化生、創傷治癒(肉芽組織、瘢痕)を理解する					
2	代謝障害、循環障害					各栄養素(蛋白質、脂質、糖質)別代謝疾患、局所・全身循環障害を学習し理解する					
3	免疫(アレルギー、自己免疫疾患)					アレルギー性組織傷害(アレルギー反応)、自己免疫疾患の種類・特徴・例を学習し理解する					
4	炎症、感染症					炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症・感染症の種類、原因となる病原微生物を学習し理解する					
5	腫瘍					腫瘍の定義、悪性腫瘍の特徴、転移形式、発がんの原因・メカニズムを理解する					
6	老化、先天異常・奇形					加齢に伴う疾患、先天異常・奇形(遺伝子・染色体異常、疾患)を学習し理解する					
7	循環器(心臓、血管)の病理					心臓の構造・機能、先天性心疾患、狭心症・心筋梗塞、心筋症、動脈硬化症、動脈・静脈瘤を理解する					
8	呼吸器の病理					呼吸器の構造・機能、肺炎、肺うつ血・肺水腫、気管支の疾患、肺腫瘍を学習し理解する					
9	消化器の病理					消化器の構造・機能、胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓の炎症、疾患と腫瘍を学習し理解する					
10	神経系の病理					中枢神経系の構造・特徴、脳血管障害(脳梗塞、脳出血)、感染症、神経変性性疾患、外傷を理解する					
11	運動器の病理					運動器の構造・機能、骨・関節・筋肉の疾患(骨折、腫瘍、関節リウマチ等)とその特徴を学習し理解する					
12	泌尿・生殖器の病理					泌尿・生殖器の構造・機能、腎炎、糸球体病変、膀胱炎、前立腺疾患、生殖器感染症・腫瘍を理解する					
13	内分泌臓器、皮膚、感覚器の病理					内分泌の仕組み、各種ホルモンの分泌亢進・低下に伴う疾患、皮膚・眼・耳の構造と疾患を理解する					
14	造血器の病理					正常な造血、骨髄・リンパ節の構造と機能・疾患、貧血の機序、白血病・リンパ腫を学習し理解する					
15	期末試験					授業全体の内容のテストにより理解度の判定を行う。習得不十分なところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 小テスト70点満点＋期末試験30点満点で、59点以下を不合格とする						〔特記事項〕 毎回の授業で、理解度の把握を目的とした小テスト(5問:2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題)を実施します。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員 温 龍太郎			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	座学実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
理学療法検査測定法(前期)											
〔授業の学習内容と心構え〕											
運動器疾患・脳血管疾患に対する理学療法を施行するにあたっての適切な評価技法を修得する。病態を機序から学んだうえで安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技を併用する。動きやすい服装で授業に臨むこと。 また、学生個々の身体機能の個体差を実感してもらうため、席は毎回アトラダムに指定する。											
〔到達目標〕											
理学療法における運動機能評価・感覚機能評価・整形外科的評価の目的と意義を原理から正しく理解し、安全かつ正確に行えるようになることを目標とする。 同時に、臨床的推論の能力養成も企図する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社)、理学療法評価概論で配布した全プリント、当該授業プリント三部											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	運動機能検査①					錐体路を脳画像から理解する。					
2	運動機能検査②					錐体外路、反射の概念および原理を理解する。					
3	運動機能検査③					伸張反射を理解する					
4	運動機能検査④					I b抑制、相反抑制、反回抑制を理解する					
5	運動機能検査⑤					腱反射の意義を理解する					
6	運動機能検査⑥					共同運動、連合反応、病的反射を理解する。 筋緊張検査を理解する。					
7	運動機能検査⑦					片麻痺(へんまひ)の評価技法を修得する。 肢位から病変を推察できるようになる。					
8	感覚機能検査①					感覚路を脳画像から理解する。					
9	感覚機能検査②					上行性伝導路を理解する。					
10	感覚機能検査③					脊髄損傷の5パターンを理解する。					
11	感覚機能検査④					脊髄損傷の5パターンを理解する。					
12	感覚機能検査⑤					表在感覚の検査技法を原理から学ぶ。					
13	感覚機能検査⑥					深部感覚の検査技法を原理から学ぶ。					
14	感覚機能検査⑦					複合感覚検査の評価技法を原理から学ぶ。					
15	期末テスト					前期範囲について、理学療法士国家試験レベルの問題に対応できるようになる。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
筆記試験を行なう。 1点×10問の小テスト13回分(50%)、ならびに、1点×60問の期末テスト1回分(50%)にて評価する。						評価学は、主要三教科すなわち解剖学・運動学・生理学を統合した学問である。これら三教科を横つなぎで理解すること。また、病理学ならびに薬理学も同時に学んでいく。したがって、情報を整理する術を身につけることが肝要。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛			
神経内科学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
神経内科学の分野は広く、リハビリテーション医学を学ぶうえで大変重要であり、理学療法において外すことのできない学問である。神経内科を知っているかどうかで、神経内科的な疾患のみならず、それ以外の疾患に対する理学療法を行うときにも大きく結果が変わってくる。理学療法を行うために是非とも神経内科学の知識を深めてほしい。											
〔到達目標〕											
・神経内科学を理解するために必要な基本的知識を調べ、準備することができる。 ・神経内科学について理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	イントロダクション					神経内科学の全体像について説明することができる					
2	中枢神経系の解剖と機能1					中枢神経系の解剖と機能について説明することができる					
3	脳血管系の解剖					脳血管系の解剖について説明することができる					
4	中枢神経の解剖と機能2					中枢神経の解剖と機能について説明することができる					
5	神経学的症候学1 運動麻痺・錐体路					運動麻痺・錐体路について説明することができる					
6	神経学的症候学2 錐体外路・不随意運動・失調					錐体外路・不随意運動・失調について説明することができる					
7	神経学的症候学3 感覚障害					感覚障害について説明することができる					
8	神経学的症候学4 高次脳障害・失語・失行・失認					失語・失行・失認について説明することができる					
9	神経学的症候学5 高次脳障害・記憶・注意					記憶・注意について説明することができる					
10	神経学的症候学6 高次脳障害・構音・嚥下					構音・嚥下について説明することができる					
11	神経学的診断					神経学的診断について説明することができる					
12	神経学的検査1 画像					画像について説明することができる					
13	神経学的検査② 電気生理・検体					電気生理・検体について説明することができる					
14	前期まとめ										
15	期末試験										
〔評価について〕 期末試験70% 小テスト30%で59%以下を不合格とする。						〔特記事項〕 授業変更・遠隔授業の可能性あり					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員 谷本 幸洋			
授業科目名 整形外科学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。									
〔到達目標〕 整形外科の基礎科学から、総論的疾患、上肢・頸椎までの疾患の各論について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書んでくこと。 授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	整形気外科の基礎科学:骨の構造、発生、再生等			骨の構造・生理・発生・成長・維持・修復・再生について理解できる。					
2	関節・筋・神経の構造、生理、生化学			関節・筋・神経の構造・生理・生化学について理解できる					
3	整形外科的現症の取り方・検査			整形外科特有の診察・検査について理解できる					
4	保存療法、手術療法			整形外科における保存療法と手術療法について理解する					
5	関節リウマチ			関節リウマチの病態・診断・治療について理解する					
6	変形性関節症、循環障害と阻血壊死性疾患			変形性関節症の総論、病態、一般的知識について理解する					
7	先天性骨系統疾患、先天性異常症			先天性骨系統疾患・先天性異常症の総論を理解する					
8	代謝性骨疾患			代謝性骨疾患(特に骨粗鬆症)の病態・診断・治療について理解する					
9	骨腫瘍			骨腫瘍の総論・概略について理解する					
10	軟部腫瘍・神経筋疾患			整形外科診察に当たり、知っていたほうが良い神経筋疾患について理解する					
11	肩関節			肩関節の診察・検査、疾患について理解する					
12	肘関節			肘関節の診察・検査、疾患について理解する					
13	手関節と手			手関節と手の診察・検査、疾患について理解する					
14	頸椎、胸郭			頸椎の診察・検査、疾患について理解する					
15	期末テスト解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験と出席・小テストを加味し行う。 筆記試験は期末テスト(100点)で行う。 評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								堀内 秀憲			
運動療法学Ⅰ		必修・ 選択		必修	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を現在も臨床業務を行っている教員が、理学療法を考え、行うなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。											
〔到達目標〕											
理学療法の中で中核となる運動療法学の基本的な知識を習得し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 株式会社メジカルビュー											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 運動療法とは何か				理学療法とは何か、運動療法とは何か、リハビリテーションの中止基準について理解をすることができる						
2	筋機能と運動療法				運動療法により筋機能がどう変化していくかを説明することができる						
3	関節可動域と運動療法				関節可動域制限が起こる理由を説明することができる 関節可動域拡大について説明することができる						
4	筋力増強訓練、関節可動域訓練実技				手関節のモビライゼーション、肩甲骨周囲筋のストレッチ、股関節周囲の筋力増強訓練ができる						
5	基本動作と運動療法 寝返り動作のバイオメカニクス				寝返り動作のバイオメカニクスについて説明することができる 寝返り動作の運動療法について、筋機能改善を主な観点として説明することができる						
6	協調性機能と運動療法				協調性に対する運動療法について説明することができる						
7	バランス機能と運動療法				バランス機能に対する運動療法について説明することができる						
8	中間試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	基本動作と運動療法 起き上がり動作のバイオメカニクス				起座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性の観点から説明することができる						
10	前庭機能と運動療法				前庭機能に対する運動療法について説明できる。						
11	基本動作と運動療法 起立・着座動作のバイオメカニクス				起立・着座動作のバイオメカニクスについて説明することができる 起立・着座動作の運動療法について筋機能、関節可動域、協調性、バランス機能、前庭機能の観点から説明することができる						
12	運動学習と運動療法				運動学習について説明することができる						
13	中枢神経機能と運動療法				中枢神経障害が理解できる。 中枢神経障害に対する運動療法が理解できる。						
14	末梢神経機能と運動療法				末梢神経障害が理解できる。 末梢神経障害に対する運動療法が理解できる。						
15	期末試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験はレポートや小テスト、中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項についてはメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科 II 部		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数
内 科 学										15
〔授業の学習内容と心構え〕										
教科書の内容を主軸とした講義形式で実施する。板書の筆記のみでなく、講義のポイントをメモにして整理する。代表的な徴候については、実際に体験できるように工夫をする。										
〔到達目標〕										
内科学の診断法、診断プロセス、検査法、検査計画、身体所見の取り方、サイン(徴候)とシンプトン(症状)の区別、状態の評価について、医療記録の記入を含めて客観的に記載ができるようになる。内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
内科学(第3版第6刷:2019. 1. 1) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院					教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目に関連付けた文章を作成して理解し、説明できるようにする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	1. 内科学とは					内科学にとってのリハビリテーションの意義を説明できる				
2	2. 内科的診断と治療の実際 : 診療録					問題指向型診療録(POMR)を説明できる				
3	診察法 : 視診、触診、打診、聴診					医療人として真摯な診察ができ、所見を取れる				
4	臨床検査、内科的治療					検査、投薬について基本的な説明ができる				
5	3. 症候学					各種徴候の生理・病理と主な原因疾患をまとめる				
6	4. 循環器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる				
7	循環器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる				
8	中間試験					①～⑦までの範囲				
9	循環器疾患(3) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる				
10	5. 呼吸器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる				
11	呼吸器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる				
12	6. 消化管疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる				
13	消化管疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる				
14	7. 肝胆膵疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめ、各疾患について、簡潔に説明できる				
15	期末試験					①～⑭までの範囲				
16										
〔評価について〕 評価 中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。					〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員 佐藤 俊生			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
物理療法学									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) ・各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。									
〔到達目標〕 物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、温熱・寒冷・光線・水治などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕					
「物理療法学」(医学書院)				シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1 4/14	オリエンテーション、総論(定義、種類、現状) 物理療法におけるリスク管理				物理療法の現状を説明できる。 リスクの種類やリスク管理について説明できる。				
2 4/21	温熱療法総論 温熱療法の基礎と生理学的作用 一般的な適応と禁忌				温熱療法の基礎的事項を説明できる。 一般的な温熱療法の適応と禁忌を述べられる。				
3 4/28	温熱療法各論1 ホットパック・パラフィン				ホットパック・パラフィンの基礎的事項を踏まえ実施方法を説明できる。				
4 5/12	温熱療法各論2 超音波療法① 基礎的事項、生体内作用				超音波の基礎的事項と生体内作用について説明できる。				
5 5/19	温熱療法各論3 超音波療法② 生体内作用、適応・禁忌、使用方法				超音波の生体内作用を説明できる。適応・禁忌事項を踏まえて実施方法を説明できる。				
6 5/26	寒冷療法総論、寒冷療法の実際				寒冷療法の生理学的作用や実施方法を説明できる。				
7 6/2	水治療法総論 各論(部分浴、全身浴、水中運動療法)				水治療法の基礎を説明できる。各種の実施方法を説明できる。また、水中運動療法の注意点を説明できる。				
8 6/9	中間試験(1～6回目内容) 復習				ここまで扱った内容を説明できる。				
9 6/16	光線療法総論 光線療法各論1 紫外線療法				光線療法の基礎、紫外線療法の特徴を説明できる。				
10 6/23	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法(超短波療法、極超短波療法)				赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。				
11 6/30	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法(超短波療法、極超短波療法)				赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。				
12 7/7	電気刺激療法総論①				電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。				
13 7/14	電気刺激療法総論② 電気刺激療法各論1 治療的電気刺激(TES)①				電気刺激療法の基礎的事項、中枢神経障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。				
14 7/21	治療的電気刺激(TES)②				末梢神経障害やその他の障害に対する治療的電気刺激(TES)について説明できる。				
15 7/28	まとめ、期末試験(7回目、9～14回目内容)				これまでに扱った内容について疾患・症状に応じて適切な実施方法を選択し説明することができる。				
〔評価について〕 中間試験 50% 期末試験 50%				〔特記事項〕 授業進行に応じて確認テストを実施する(成績評価には含まない)。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義・実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数
障がい者スポーツ論										15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援するための知識を習得する。また中級障がい者スポーツ指導員資格を有する理学療法士が授業を行うことで、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。										
〔到達目標〕 障がい者スポーツ制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の障がい者に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。										
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕				
教材)授業内で配布 参考文献)障害のある人のスポーツ指導教本(ぎょうせい、R2) 障がい者スポーツ指導教本(ぎょうせい、H28)						授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。				
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	「しょうがい」とは何か 障がい者スポーツに関する諸施策					各障害に関する法律や障がい者福祉施策と障害者スポーツに関する施策を説明できる。				
2	コミュニケーションスキルの基礎					障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。				
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質					スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。				
4	障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの意義や理念について理解する					障がい者スポーツの意義を説明できる。				
5	安全管理、応急処置について学習する					安全管理、応急処置の手順を説明できる。				
6	障がい者の基礎知識1(身体) 頸椎損傷、脊髄障害					脊髄損傷や脳性障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
7	障がい者の基礎知識1(身体) 脳性麻痺、脳血管障害					脳性障がい、脳血管障害の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
8	障がい者スポーツの実際 ボッチャ					実際にボッチャを体験する。				
9	障がい者の基礎知識1 視覚障害					視覚障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
10	障がい者の基礎知識1 聴覚障害					聴覚障がい、の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
11	障がい者の基礎知識(知的・精神) 知的障がいと精神障がいについて理解する					知的障がいや精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。				
12	障がい者スポーツの実際 シットینگバレーボール					実際にシットینگバレーボールを体験し、実施上の注意点や競技特性を説明できる。				
13	障がい者スポーツの実際 フライングディスク					実際にフライングディスクを使用したスポーツを体験し、実施上の注意点や競技特性を説明できる。				
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具					障がい者スポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。				
15	障がい者スポーツの実際 当事者との交流					障がい者スポーツを実際に行っている方から話を聞き、感想を述べられる。(課題あり)				
〔評価について〕 中間試験(レポート課題)40% 期末試験(レポート課題)40% 当事者との交流の課題 20%						〔特記事項〕				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部								担当教員	
授業科目名		学年	2	開講区分	前期	田中 信一					
		必修・選択	必須	授業形態	講義	時間数	30	授業回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
各関節の動きを中心に基礎的運動学の知識を更に発展・統合し、臨床における諸現象との関連を理解する。各関節の機能的特徴は、人間の効率的な運動の理解や臨床での障害像の理解に繋がることを意識しながら受講してほしい。											
〔到達目標〕											
・各関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。 ・各関節の特徴と障害を関連づけることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版(電子書籍付) 南江堂											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	広義の肩関節の構造と機能				肩関節の構造を説明することができる。						
2	肩関節の安定組織、肩峰下空間、インピンジメント関節包内運動(転がり、滑り、軸回旋)				広義の肩関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。						
3	肩関節の構造と障害の関係性				肩関節の特徴と障害を関連づけることができる。						
4	肘関節の構造と機能、関節包内運動 肘関節の構造と障害の関係性				肘関節の関節包内運動を説明することができる。 肘関節の特徴と障害を関連づけることができる。						
5	手関節、手指の構造と機能 三角線維軟骨複合体(TFCC)、手のアーチ、手関節、手指の関節包内運動				手関節、手指の特徴および関節包内運動を説明することができる。						
6	手関節の構造と障害の関係性				手関節、手指の特徴と障害を関連づけることができる。						
7	脊柱・骨盤帯の構造と機能 脊柱の弯曲、腰仙角、腰椎の前弯、腹筋群、背筋群の特徴、椎間関節の動きの特徴				脊柱・骨盤帯の構造および機能の特徴を説明することができる。						
8	確認テスト 前半の振り返り				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	体幹・骨盤帯の構造と障害の関係性				脊柱・骨盤の特徴と障害を関連づけることができる。						
10	股関節の構造と機能、関節包内運動 姿勢戦略				股関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。						
11	股関節の構造と障害の関係性				股関節の特徴と障害を関連づけることができる。						
12	膝関節の構造・機能 screw-home movement、関節包内運動、大腿四頭筋と膝蓋骨の作用				膝関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。						
13	膝関節の構造と障害の関係性 足部・足関節の構造・機能 足関節の運動と腓骨の運動、				膝関節の特徴と障害を関連づけることができる。						
14	足部のアーチの特徴、ウィンドラス機構、関節包内運動				足部・足関節の構造および機能の特徴を説明することができる。						
15	期末テスト 後半の振り返り				病態運動学で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 小テスト、課題(20%) 確認テスト(40%) 期末テスト(40%)					〔特記事項〕 小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 佐藤 俊生			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技・講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
物理療法学実習									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) ・各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握(評価)できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。									
〔到達目標〕 物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、電気刺激・牽引などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。各種物理療法の原理や生理学的作用を踏まえ、効果検証を実施し考察できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 「物理療法学」(医学書院)				〔準備学習・時間外学習〕 シラバスを確認し該当するページを事前に確認しておくこと。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	電気刺激療法各論2 機能的電気刺激(FES)			機能的電気刺激について説明できる。					
2	電気刺激療法各論3 疼痛とは 経皮的電気神経刺激療法(TENS)			疼痛の概念について説明できる。経皮的電気神経刺激療法の基礎と実施方法が説明できる。					
3	電気刺激療法各論4 干渉電流療法、特殊刺激法			干渉波療法やrTMS・tDCSについて説明できる。					
4	バイオフィードバック 牽引療法 総論、頸椎牽引、骨盤牽引			バイオフィードバック療法・牽引療法の基礎的事項と頸椎牽引・骨盤牽引の実施方法が説明できる。					
5	徒手療法の1 徒手療法総論 関節モビライゼーション①			徒手療法の基礎、関節運動学の基礎を説明できる。 上下肢の関節モビライゼーションを体験する。					
6	徒手療法の2 関節モビライゼーション②			上下肢の関節モビライゼーションを体験し実施方法を説明できる。					
7	徒手療法の3 軟部組織モビライゼーション			軟部組織モビライゼーションを体験し、実施方法を説明できる。					
8	中間試験(1～7回目の内容) 復習			ここまで扱った内容を説明できる。					
9	徒手療法の4 軟部組織モビライゼーション			軟部組織モビライゼーションを体験し、実施方法を説明できる。					
10	物理療法体験 1(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)			各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。 各療法の被治療感を述べられる。					
11	物理療法体験 2(課題提出有) (ホットパック、パラフィン、超音波、光線、水治、牽引)			各療法の基礎を踏まえて機器の操作ができる。 各療法の被治療感を述べられる。					
12	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応			各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。					
13	物理療法体験(課題提出有) 対象者への適応			各治療法について実施方法を確認し、模擬患者に対して説明と治療を実施することができる。					
14	物理療法の効果を検討1(オリエンテーション・計画作成)			物理療法の基礎を踏まえ、物理療法の実施方法と実施前後の検査測定について計画できる。					
15	物理療法の効果を検討2(実習)			実際に物理療法を実施し、前後の変化を測定することができる。					
〔評価について〕 物理療法体験時の課題 40%(10%×4回(10、11、12、13回目)) 中間試験 30% 期末課題レポート 30%				〔特記事項〕 授業進行に応じて小テストを実施する(成績評価には含めない)。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						本田勝久			
疾患別理学療法(整形外科)		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
①整形外科疾患の病態を理解する ②整形外科疾患の病態に対する適切な理学療法を学ぶ ③与えられた疾患に対する医学療法を立案し実施できるようになる 総合病院勤務経験した教員から各疾患に対する理学療法士役割を学ぶ									
〔到達目標〕									
①整形外科疾患に対し適切な理学療法を立案出来るようになる ②									
〔使用教材、参考文献等〕									
シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト改訂第3版 (南江堂)									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して病態を理解する					
2	変形性膝関節(TKA術後)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して病態を理解する					
3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して病態を理解する					
4	変形性股関節症(THA術後)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して病態を理解する					
5	腰痛(椎管狭窄症)に対する理学療法			疾患に対して病態を理解する					
6	腰痛(椎間板ヘルニア)に対する理学療法			疾患に対して病態を理解する					
7	靱帯損傷(膝)に対する理学療法			疾患に対して病態を理解する					
8	下肢骨折に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して病態を理解する					
9	下肢骨折に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して病態を理解する					
10	上肢骨折に対する理学療法			疾患に対して病態を理解する					
11	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して病態を理解する					
12	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して病態を理解する					
13	下肢切断に対する理学療法			疾患に対して病態を理解する					
14	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ			疾患に対して病態を理解する					
15	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅱ			疾患に対して病態を理解する					
使用テキスト・参考文献 パワーポイント・標準整形外科その他				〔特記事項〕 単位認定は課題レポートとする					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						本田勝久			
疾患別理学療法実習(整形外科)		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
①整形外科疾患の病態を理解する ②整形外科疾患の病態に対する適切な理学療法を学ぶ ③与えられた疾患に対する医学療法を立案し実施できるようになる 総合病院勤務経験した教員から各疾患に対する理学療法士役割を学ぶ									
〔到達目標〕 ①整形外科疾患に対し適切な理学療法を立案し実施出来るようになる ②									
〔使用教材、参考文献等〕 シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト改訂第3版（南江堂）									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	変形性膝関節に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
2	変形性膝関節(TKA術後)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
3	変形性股関節症に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
4	変形性股関節症(THA術後)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
5	腰痛(椎管狭窄症)に対する理学療法			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
6	腰痛(椎間板ヘルニア)に対する理学療法			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
7	靱帯損傷(膝)に対する理学療法			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
8	下肢骨折に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
9	下肢骨折に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
10	上肢骨折に対する理学療法			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
11	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅰ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
12	肩関節(周囲炎・腱板損傷)に対する理学療法Ⅱ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
13	下肢切断に対する理学療法			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
14	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅰ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
15	慢性関節リウマチに対する理学療法Ⅱ			疾患に対して理学療法を立案・実施できる					
使用テキスト・参考文献 パワーポイント・標準整形外科その他			〔特記事項〕 単位認定は課題レポートとする・						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛 先生			
神経内科学				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
リハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)による神経内科学では、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を中心にその病態と診断を理解し理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。											
〔到達目標〕											
理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院						専門用語が多い科目のため予め教科書を読んでくること。また、授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション					前半の振り返りと後期における授業概要を理解できる。					
2	中枢神経系・末梢神経系の解剖と機能					前期で学んだ中枢神経における内容をグループ学習でお互いが確認できる。					
3	高次脳機能障害(注意障害)					注意障害の概念・検査法とリハビリテーションにおける対応法を理解できる。					
4	高次脳機能障害(遂行機能障害)					遂行機能障害の概念・検査法とリハビリテーションにおける対応法を理解できる。					
5	構音障害					構音のメカニズムと診断・治療手段を理解できる。					
6	嚥下障害					嚥下障害のメカニズムと診断・治療手段を理解できる。					
7	脳神経外科領域の疾患					脳浮腫・脳ヘルニア等脳神経外科領域の疾患を理解できる。					
8	脳血管障害					脳血管障害の症状と診断治療を理解できる。					
9	認知症					認知症の識別診断と治療を理解できる。理学療法との関連を理解できる。					
10	脳腫瘍					脳腫瘍の病態とメカニズム・画像診断を理解できる。					
11	外傷性脳脳損傷・脊髄損傷・脊髄小脳変性症					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
12	パーキンソン病・ギランバレー症候群末梢神経障害					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
13	進行性筋ジストロフィー脳性麻痺・ダウン症					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
14	総復習					神経内科における各種の疾患をグループワークで総復習できる。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2年	開講区分	後期	担当教員 齋藤 悠里 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
臨床心理学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床心理士でありスクールカウンセラーとしての経験がある講師である。人の心の在りようを理解するために、臨床心理学の様々な心理療法の知見について、体系的に学ぶ。											
心構え:臨床心理学の知見を知識として理解させるのではなく、ワークを通して実体験として理解させ、より実際に役に立つものとして習得させる。また、教授者が実際の精神科での患者のイメージをよりリアルなものとして、説明する際も主体的に考えられるように、ソクラテス式質問法を用い、生徒が自ら答えを出すように指導する											
〔到達目標〕											
臨床心理学の様々な心理療法を実体験を通して理解することで、患者さんがどのような心理状態にあるかを説明できるようにする。このことで、ただ体の治療だけを目指すのではなく、患者さんがどのような心理的な辛さを抱えているかをイメージでき、治療の際の適切な言葉かけが出来るようになる。また、自分に起きる心理的变化を理解し、これをコントロールできるようになる											
〔使用教材、参考文献等〕 専門職のための臨床心理学基礎					〔準備学習・時間外学習〕 毎回、ホームワークを出し次回の授業がスムーズに進むようにする。 前回の学習内容の復習をし、その内容の小テストを行い、知識の定着を図る						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	臨床心理学の概念。臨床心理学の誕生と歴史。 理学療法士の臨床における臨床心理学の役割					臨床心理学の概要について説明でき、理学療法士が臨床で使える臨床心理学について説明できる					
2	精神分析学・精神分析療法理論の発生から発展の経緯及び防衛機制などの各項目の定義。実際の運営実態。					精神分析学の理論及び精神分析療法の歴史を説明でき、様々な概念を定義できる					
3	精神分析療法の転移・逆転移の説明と防衛機制の詳細な説明。催眠療法についても説明する					精神分析療法の転移・逆転移について説明でき、防衛機制についても区別できる					
4	分析心理学及び来談者中心療法の理論と各項目の定義。実際の運営についての体験					分析心理学の概念と定義が説明でき、来談者中心療法の理論と実際の運営について説明できる					
5	認知療法及び認知行動療法の歴史と実際の運営についての理解とワークを通した実体験による理解					認知療法・認知行動療法の理論と運営について、実際のワークを通して理解し、説明できる。					
6	自律訓練法、森田療法、内観療法、生活技能訓練を実体験と説明により理解する					自律訓練法、森田療法、内観療法、生活技能訓練の定義が出来、説明できる					
7	集団精神療法、ゲシュタルト療法、アドラー心理学、心理劇についての説明					集団精神療法、ゲシュタルト療法、アドラー心理学、心理劇について定義できる。					
8	確認テスト					中間テストにより学習内容の効果測定を行う					
9	交流分析、家族療法、子供に行える心理療法について説明し、体験を通して理解する					交流分析、家族療法、子供に行う心理療法について、里香氏説明できる。					
10	心理検査の歴史及び理論と知能検査を説明する					心理検査の歴史及び理論と知能検査について定義できる					
11	心理検査のうち、パーソナリティ検査及び脳機能に関する検査について理解する					パーソナリティ検査、脳機能検査について説明できる					
12	発達の理論について概説し、一般的な発達理論とピアジェ、エリクソンの発達理論について説明する					ピアジェとエリクソンなどの発達理論を理解し、一般的な発達理論も定義できる					
13	記憶および学習理論について詳細に理解する					記憶および学習理論について身近な問題として理解し、説明できる					
14	臨床心理学の重要点について理解する					これまで習った臨床心理学について、区別できそれぞれの定義を説明できる					
15	期末テスト					テストにより学習の効果査定を行う					
〔評価について〕 評価については、確認テスト(50点)、期末テスト(50点)の合計100点と小テストの合計により評価する。評価は、学則規定に準ずる					〔特記事項〕 授業だけでなく、主体的に予習し知見の着実な定着を目指す。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
整形外科学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇しうる整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。											
〔到達目標〕											
各整形外科疾患を全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書んでくこと。 授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	胸椎・腰椎(概略—腰椎変性疾患)					胸椎や腰椎の椎間板ヘルニア始め運動器障害における疾患を理解できる。					
2	腰椎(急性腰痛発作—脊髄腫瘍)					整形外科的腰椎疾患から原発性腫瘍と転移性腫瘍の病態まで把握できる。					
3	股関節(概略—ペルテス病)					小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。					
4	股関節(大腿骨頭すべり症—骨盤輪の疾患)					小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。					
5	股関節(股関節の手術), 膝関節(概略—発育期の膝関節障害)					股関節手術・手術後の状態及び膝関節に罹る発育段階にける傷害を理解できる。					
6	膝関節(半月板損傷—膝周囲の関節包・滑液胞の異常)					膝関節における損傷や異常について理解が出来る。					
7	足関節と足趾					足関節と足趾に関わる疾患を理解できる。					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	外傷学:外傷総論					スポーツ外傷・障害が部位の解剖学的構造と運動学的メカニズムについて理解できる。					
10	外傷総論, 軟部組織損傷					機械的外力などにより、結合組織が損傷を受けた状態を理解できる。					
11	骨折・脱臼(概略—胸郭の外傷)					骨折・脱臼(概略—胸郭の外傷)の病態について理解できる。					
12	骨折・脱臼(骨盤の骨折—膝関節部の骨折と脱臼)					骨盤の骨折から膝関節部の骨折と脱臼について理解できる。					
13	骨折・脱臼(下腿骨骨折—足部の骨折と脱臼)					下腿骨骨折—足部の骨折と脱臼について理解できる。					
14	脊椎・脊髄損傷(脊髄損傷)					代表的な末梢神経損傷と整形外科を理解する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科 II 部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
内 科 学											
〔授業の学習内容と心構え〕											
教科書の内容を主軸とした講義形式で実施する。板書の筆記のみでなく、講義のポイントをメモにして整理する。代表的な徴候については、実際に体現できるように工夫をする。											
〔到達目標〕											
内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。余裕があれば、巻末のセルフアセスメントも実施する。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
内科学(第3版第6刷:2019. 1. 1) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院						教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目を関連付けた文章を作成して理解し、説明するようにする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	8. 血液・造血器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
2	血液・造血器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
3	9. 代謝性疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
4	代謝性疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
5	10. 内分泌疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
6	内分泌疾患(2) : 各論(1)					各疾患について、簡潔に説明できる					
7	内分泌疾患(3) : 各論(2)					各疾患について、簡潔に説明できる					
8	中間試験					①～⑦までの範囲					
9	11. 腎・泌尿器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
10	腎・泌尿器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
11	12. アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(1) : 総論					免疫機構・生理を医学的観点でまとめる					
12	アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
13	13. 感染症(1) : 総論					感染症病原体・予防対策を医学的観点でまとめる					
14	感染症(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
15	期末試験					①～⑭までの範囲					
16											
〔評価について〕 評価 中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。						〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 伊藤 敬志 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
義肢装具学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科の中でも骨折や切断に対するアセスメントは義肢装具士の講師による授業で習得する。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。特にそれぞれの疾患に対して目的・種類・どのような状態に対して適応するのかを学んでください。											
〔到達目標〕 義肢装具学の知識を習得する。 様々な義肢装具について説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 義肢装具学テキスト(南江堂)						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読んでくること。 授業後は復習をして、用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業オリエンテーション 義肢総論					義肢の概念を理解できる					
2	切断の三大原因とその治療					切断の三大原因とその治療手段を理解できる					
3	装具に使用される部品 名称、継手、ストラップ					装具に使用される部品、名称、継手、ストラップ等の名称を理解できる					
4	切断部位と切断術					画像動画も使いながら切断を理解できる					
5	切断者の評価①					切断の知識と全体評価を理解できる					
6	切断者の評価②					疾患に対する断端評価を理解できる					
7	断端管理					疾患に対する断端管理を理解できる					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
9	装具総論					大腿義足ソケット等、装具を理解できる					
10	膝継手、足継手					装具における膝継手、足継手を理解できる					
11	下腿義足ソケット					装具における下腿義足ソケット等を理解できる					
12	その他の義足					その他の義足装具を理解できる					
13	義手とチェックアウト					義手とチェックアウトを理解できる					
14	異常歩行分析と指導、アライメント					異常歩行分析と指導、アライメントを理解できる					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部				担当教員			
授業科目名		学年	2	開講区分	後期	堀内 秀憲 先生			
		必修・選択	必修	授業形態	講義・演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
運動療法学Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を現在も臨床業務を行っている教員が、理学療法を考え、行なうかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。									
〔到達目標〕									
理学療法の中で中核となる運動学の基本的な知識を習得し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 株式会社メジカルビュー									
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 呼吸機能と運動療法		呼吸機能と運動療法について説明することができる						
2	循環機能と運動療法		循環機能と運動療法について説明することができる						
3	代謝機能と運動療法		代謝機能と運動療法について説明することができる						
4	組織別に考える運動療法①		組織に対する運動療法について説明することができる						
5	組織別に考える運動療法②		組織に対する運動療法について説明することができる						
6	組織別に考える運動療法③		組織に対する運動療法について説明することができる						
7	中間試験 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
8	組織別に考える運動療法④		組織に対する運動療法について説明することができる						
9	組織別に考える運動療法⑤		組織に対する運動療法について説明することができる						
10	組織別に考える運動療法⑥		組織に対する運動療法について説明することができる						
11	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた①		運動療法プログラム作成のための情報収集のしかたの大枠について知ることができる						
12	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた②		運動療法プログラム作成のための情報収集を模擬的にすることができる						
13	運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた③		運動療法プログラム作成のための情報収集・解釈のしかた						
14	期末試験 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
15	まとめ		運動療法に関する全般的な考えを深める						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験はレポートや小テスト、中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								温 龍太郎			
				必修・選択	必修	授業形態	講義実技	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15
理学療法検査測定法（通年）											
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
脳血管疾患に対する理学療法を施行するにあたっての適切な評価技法を修得する。病態を機序から学んだうえで安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技を併用する。動きやすい服装で授業に臨むこと。 また、学生個々の身体機能の個体差を実感してもらうため、席は毎回アトランダムに指定する。											
〔到達目標〕											
理学療法における脳神経・協調性・高次脳機能評価の目的と意義を原理から正しく理解し、安全かつ正確に行えるようになることを目標とする。 同時に、臨床的推論の能力養成も企図する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）、検査測定法前期で配布した全プリント、当該授業プリント三部											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	脳神経検査①					脳神経とは何か理解する。また、嗅神経の検査を原理から学ぶ。					
2	脳神経検査②					視神経の検査を原理から学ぶ。					
3	脳神経検査③					動眼神経、滑車神経、外転神経の検査を原理から学ぶ。					
4	脳神経検査④					聴神経神経の検査を原理から学ぶ。					
5	脳神経検査⑤					顔面神経、三叉神経の検査を原理から学ぶ。					
6	脳神経検査⑥					舌咽神経、迷走神経、舌下神経、副神経の検査を原理から学ぶ。					
7	協調性・バランス検査①					協調性、失調とは何かを原理から理解する。					
8	協調性・バランス検査②					運動失調の検査技法を原理から学ぶ。					
9	協調性・バランス検査③					運動失調の検査技法を原理から学ぶ。					
10	協調性・バランス検査④					Pusher現象と、その類似の現象を原理から学ぶ。					
11	高次脳機能検査①					視覚性失認の検査を原理から学ぶ。					
12	高次脳機能検査②					注意障害および半側空間無視の検査を原理から学ぶ。					
13	高次脳機能検査③					失行の検査を原理から学ぶ。					
14	高次脳機能検査④					失語、失書、失読の検査を原理から学ぶ。					
15	高次脳機能検査⑤					遂行機能の検査を原理から学ぶ。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
筆記試験を行なう。 1点×10問の小テスト13回分（50％）、ならびに、1点×60問の期末テスト1回分（50％）にて評価する。					評価学は、主要三教科すなわち解剖学・運動学・生理学を統合した学問である。これら三教科を横つなぎで理解すること。また、病理学ならびに薬理学も同時に学んでいく。したがって、情報を整理する術を身につけることが肝要。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講 区分	後期	担当教員					
授業科目名	田中 信一										
	必修 ・ 選択					必須	授業 形態	演習	時間数	30	授業 回数
理学療法セミナー											

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

現場における理学療法士の役割を理解し職業理解を深める。
理学療法士としての心構えを養うとともに、対象者に対し検査測定を実施できるようになる。

〔到達目標〕

- (1) 臨床実習において学生に求められる考えかたや、態度を身につける。
- (2) 基本的検査測定を実施できるようになる。
- (3) 対象者、臨床教育者と良好なコミュニケーションがとれる。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社、PT・OTのための臨床技能とOSCE 第2版

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	医療人としての考え方を理解できる
2	検査測定の確認	検査測定の手順を説明できる。
3	検査測定の確認	検査測定の手順を説明できる。
4	検査測定の確認	検査測定の手順を説明できる。
5	検査測定の確認	検査測定の手順を説明できる。
6	検査測定の確認	検査測定の手順を説明できる。
7	リスク管理	患者確認、転倒予防、点滴、カテーテル管理ができる。
8	動作動作の確認	基本動作を説明できる。
9	動作介助の基本 口頭指示、自立、部分介助、全介助	適切な介助方法を説明できる。
10	動作介助の基本 口頭指示、自立、部分介助、全介助	適切な介助方法を説明できる。
11	動作介助の基本 口頭指示、自立、部分介助、全介助	適切な介助方法を説明できる。
12	文献検索	文献サイトを利用して文献を検索することができる。
13	実技試験試験	基本的な検査測定ができる。
14	実技試験試験	基本的な検査測定ができる。
15	検査測定体験実習 振り返り	検査測定体験実習を振り返り、課題を見つけることができる。

〔評価について〕
実技試験より評価

〔特記事項〕
毎授業において重要事項についてはリメモをとること。
疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。